

# ひと

## 原爆の「語り部」として若者を米国に派遣する

きたうら ようこ  
北浦 葉子 さん(52)



広島と長崎で何が起きたのか。実体験のない若者を「語り部」に鍛え上げ、原爆を投下した米国に送る。被爆者の願いを込め「ネバーアゲインキャンペーン」(<http://nac.jinryx.net/>)と呼ぶ。これまでに学生ら51人が海を渡った。現地の一般家庭に滞在しながら、手弁当で高校や教会を巡る。原爆映画を上映し、英語で講演した回数は累計1万1565回、聴衆は36万人を超す。それを事務局役として支える。

「先に真珠湾を攻撃したのは日本だろ」。反発を浴びると、「日本はアホやった」。身ぶり手ぶりを交えて語り、記録映画を上映した。崩れた街、黒焦げの遺体を目にする、聴衆は静まりかえった。「知れば変わる。それには伝えなければ」。若者を送る活動は、9・11テロで長期ビザ取得が難しくなり、中断した。だが、「核なき時代」を訴えた昨春のオバマ演説を機に「米国民に直接訴えたい」と再開を決めた。高校の非常勤講師をしながら続ける活動を「平和の種まき」と呼ぶ。いま、語り部候補を募集している。被爆地での合宿や太平洋戦争に関する英文レポートを課し、来年の出發まで特訓する。「求めるのは英語力と、何よりの熱意です」

文・西本秀 写真・新井義顕